

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

本日（10日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力を得て実施した上空からの観測では、昭和火口南側で飛散した噴石を確認したほか、火山灰が堆積しているのを確認しました。また、昭和火口の形状に大きな変化は認められませんが、火口内部は広がっており、火口底は深くなっていました。

桜島の噴火活動は活発化する恐れがあり、昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くまでの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

降雨時には土石流に注意が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

○活動概況

本日（10日）、気象庁機動調査班が鹿児島県の協力を得て上空からの観測を実施しました。昭和火口南側で飛散した噴石を確認したほか、火山灰が堆積しているのを確認しました。大きな噴石の多くは1km程度まで飛散していますが、遠望カメラで観測された2km程度に達した大きな噴石は確認できませんでした。また、昭和火口の形状に大きな変化は認められませんが、火口内部は広がっており、火口底は深くなっていました。

昭和火口の周辺では噴火に伴う堆積物による高温域を観測しました。

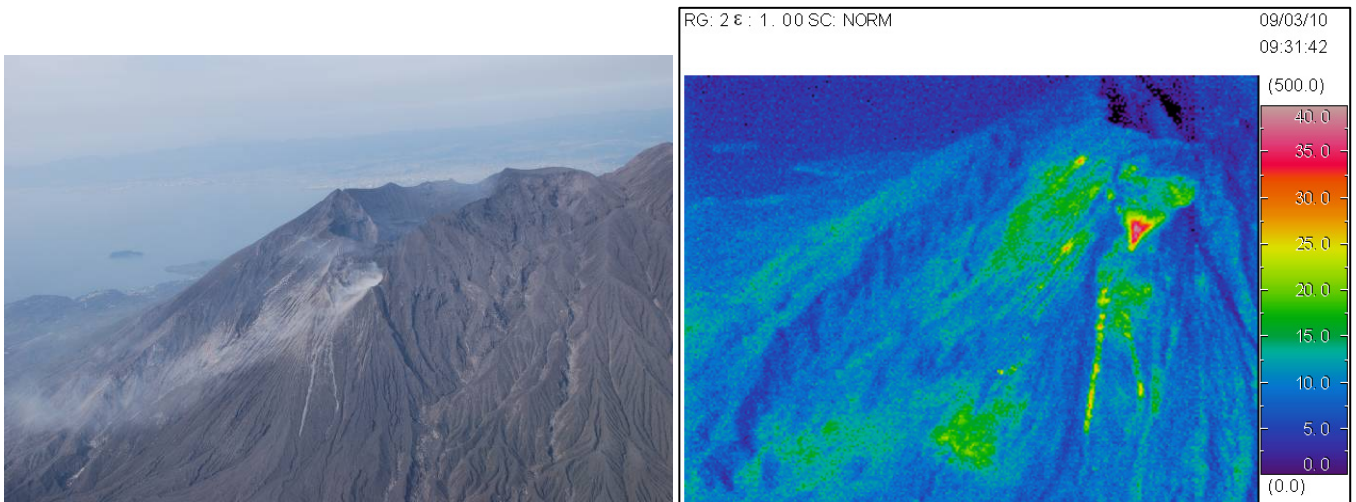


図1 桜島 昭和火口の西側上空から
昭和火口の南側に火山灰が堆積しています。

- 1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

※この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ
(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ
(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) で閲覧することができます。

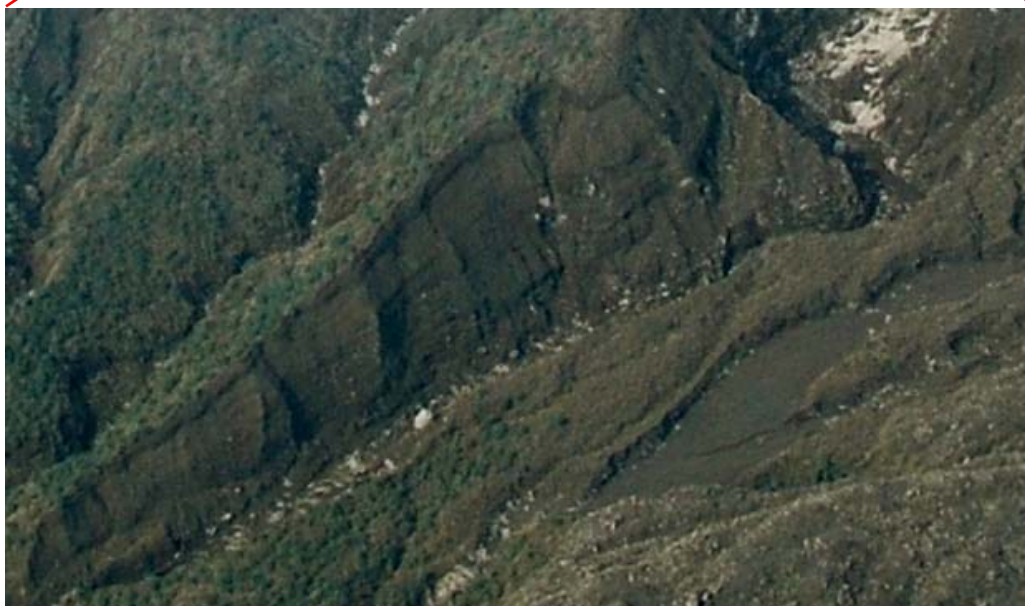


図 2 桜島 南側斜面の状況

昭和火口から 1 km を超える範囲にも大きな噴石が飛散しています

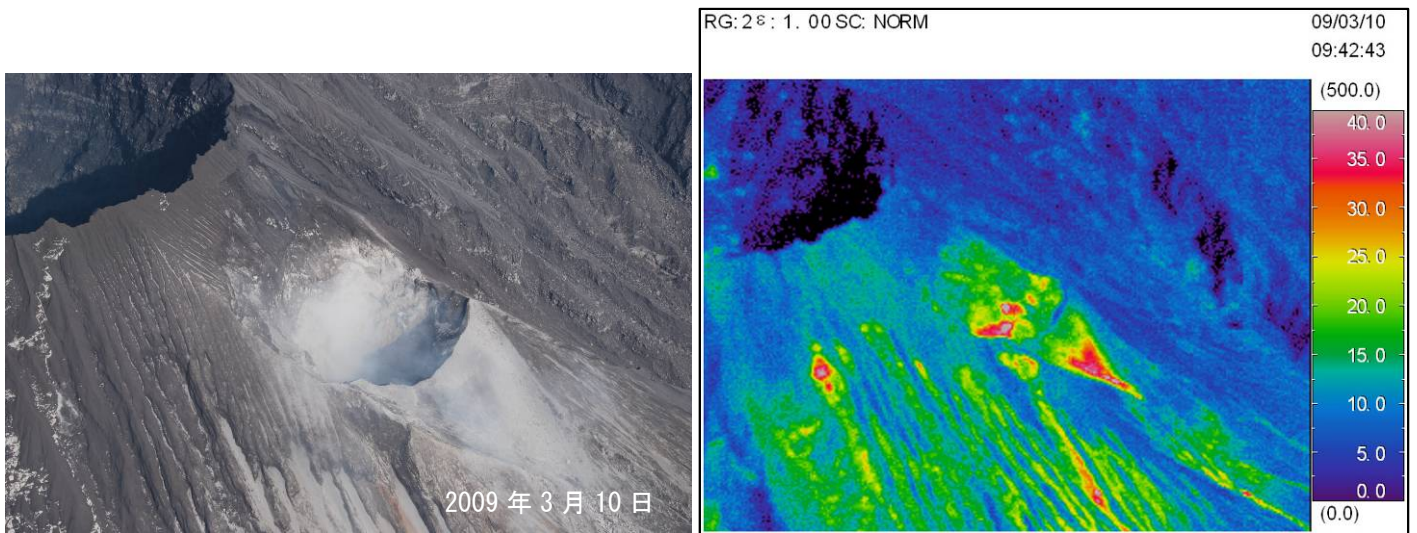


図 3 桜島 可視画像と熱画像

昭和火口周辺に堆積した噴出物によると考えられる高温域が見られます

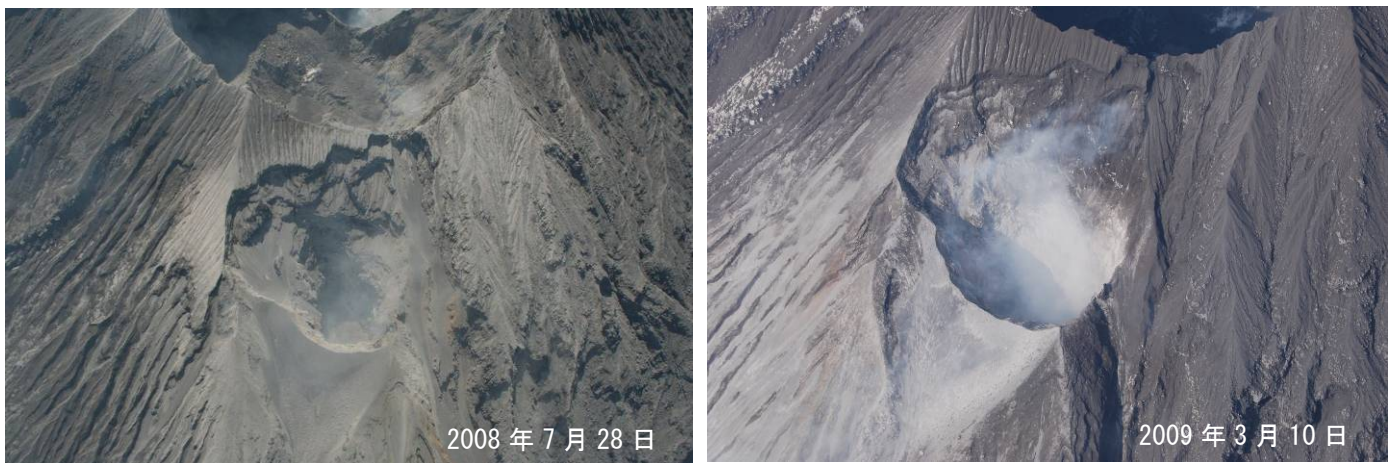


図 4 桜島 昨年 7 月 28 日と比較した昭和火口の状況

火口の形状に大きな変化は認められないが、火口内部は広がっており、火口底は深くなっていました。

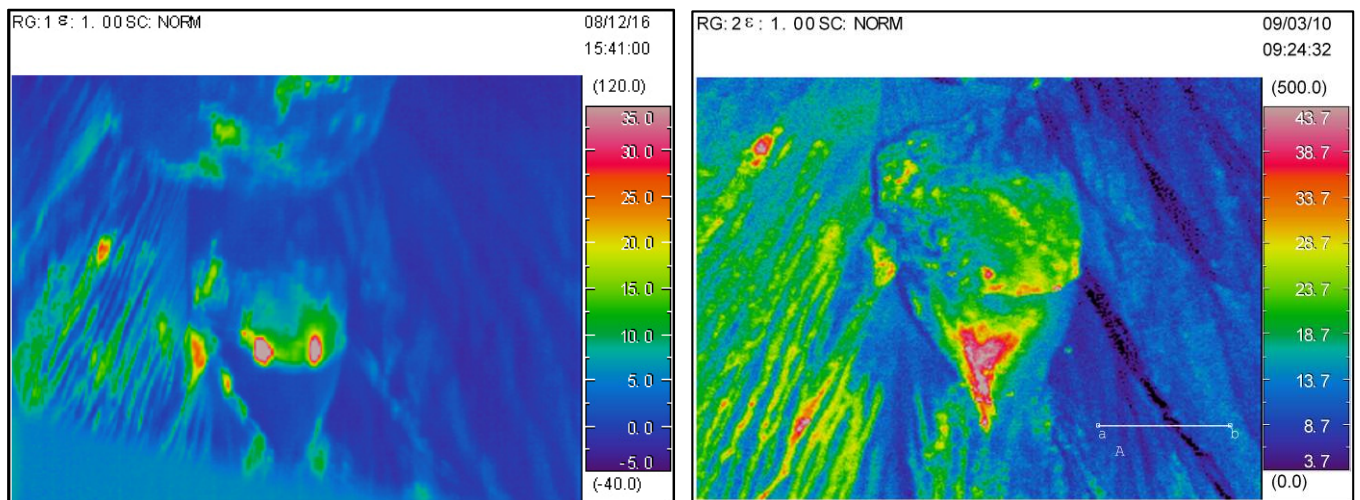


図 5 桜島 昨年 12 月 16 日と比較した昭和火口及び周辺の表面温度分布の状況